

親鸞

2018 年本試

問 2 次のア～ウは，仏教の布教に取り組んだ人物についての説明である。その正誤の組合せとして正しいものを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。 

21
----

ア 鑑真は，密教の教えに厳密な戒律を取り入れた真言律宗の立場から，各地を遍歴し，病人の救済や，道路や橋の修造を行った。

イ 空海は，唐で密教を学び，帰国後に真言宗を開くとともに，綜芸種智院を設立し，庶民教育にも努めた。

ウ 一遍は，念仏を唱えれば信不信にかかわらず往生できることを伝えるべく，各地を漂泊したことから，遊行上人と呼ばれた。

- ① ア 正    イ 正    ウ 誤
- ② ア 正    イ 誤    ウ 正
- ③ ア 正    イ 誤    ウ 誤
- ④ ア 誤    イ 正    ウ 正
- ⑤ ア 誤    イ 正    ウ 誤
- ⑥ ア 誤    イ 誤    ウ 正

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 2	21	④	3

2016 年本試

問 4 『歎異抄』には、親鸞が、師の法然と自分の信心は同一であると語ったところ、法然も親鸞の主張を認めたと伝えられている。法然の認めた、親鸞の信心理解として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 23

- ① 信心は、悪人こそが阿弥陀仏による救いの本来の対象であることを理解して、救われるために悪行を犯してまでも得たものなのだから、法然と親鸞とで異なることはあり得ない。
- ② 信心は、阿弥陀仏の姿を実際に見るかのように思い描いたとき、心に生じてくるものであり、同じ阿弥陀仏を心に描いているのだから、法然と親鸞とで異なることはあり得ない。
- ③ 信心は、自分自身の努力で身に付けた知恵や才覚によって獲得したのではなく、そもそも阿弥陀仏からいただいたものなのだから、法然と親鸞とで異なることはあり得ない。
- ④ 信心は、行によって悟りを得ることはできないと知り、あらゆる行をすべて放棄し尽くした果てに、おのずと得られるものなのだから、法然と親鸞とで異なることはあり得ない。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 4	23	③	3

2015 年本試

問 3 次のア～ウは、法然と同様、当時の仏教に新たな展開をもたらした人物たちの思想の説明である。その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。 

22
----

ア 親鸞は、阿弥陀仏の誓願を深く信じて念仏を称えよと説いた。彼の弟子の伝えによれば、これを実践できず、自力で悟ろうとする悪人こそ、救われるべき対象である。この教えは、悪人正機と呼ばれる。

イ 道元は、ただひたすら坐禅すべきことを説いた。彼によれば、身心を尽くして静かに坐<sup>すわ</sup>りぬく修行こそが、悟りという目的に達するための、最善の手段である。この教えは、修証一等と呼ばれる。

ウ 日蓮は、「南無妙法蓮華経」という七字の題目を唱えよと説いた。彼によれば、『法華経』こそが釈迦による究極の教えであり、唱題は、その功德のすべにあずかることを可能にする行である。

- |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | ア | 正 | イ | 正 | ウ | 正 |
| ② | ア | 正 | イ | 正 | ウ | 誤 |
| ③ | ア | 正 | イ | 誤 | ウ | 正 |
| ④ | ア | 正 | イ | 誤 | ウ | 誤 |
| ⑤ | ア | 誤 | イ | 正 | ウ | 正 |
| ⑥ | ア | 誤 | イ | 正 | ウ | 誤 |
| ⑦ | ア | 誤 | イ | 誤 | ウ | 正 |
| ⑧ | ア | 誤 | イ | 誤 | ウ | 誤 |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第3問	問3	22	⑦	3

2015 年追試

問 3 浄土教に新たな展開を与えた一遍の説明として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 

22
----

- ① 様々な経典を参照して『往生要集』を著し、煩惱や穢<sup>けが</sup>れに満ちたこの世界を厭<sup>いと</sup>い離れて、阿弥陀仏の極楽浄土に往生することを願い求めるべきであると主張した。
- ② 南無阿弥陀仏の名号こそが真実であると確信し、自らがもつすべてを捨て、ただ一度だけでも名号を称<sup>とな</sup>えれば、貴賤を問わず、往生することができる<sup>と</sup>説いた。
- ③ すべての人間は迷いの身ではあるが、瞑<sup>めい</sup>想<sup>そう</sup>の行を通して、宇宙やいのちの根源としての阿弥陀仏とこの身このままに一体となれると主張して、即身成仏を説いた。
- ④ 天災や国内外の争乱の原因は、阿弥陀仏の本願が軽視されているからだ<sup>と</sup>主張して、禅宗や真言宗を始めとした四つの宗派に対して、四箇格言と呼ばれる激しい批判を行った。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 3	22	②	3

2013 年追試

問 3 次の文章は、鎌倉時代の僧侶が編纂した書物について述べたものである。

・  に入れる語句の組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。

親鸞の弟子の唯円は、師から直接聞いた念仏の教えなどを『』としてまとめた。また、道元の弟子の懷奘は、師が折にふれて説いた日常の修行の心得をまとめた。これは、『』として伝えられている。これらは、教えに疑問を抱く弟子との対話や、修行者が目指すべき道を語る師の言葉を、生き生きと伝える書物である。

- |   |   |         |   |         |
|---|---|---------|---|---------|
| ① | a | 歎異抄     | b | 興禅護国論   |
| ② | a | 教行信証    | b | 正法眼蔵随聞記 |
| ③ | a | 選択本願念仏集 | b | 開目抄     |
| ④ | a | 歎異抄     | b | 正法眼蔵随聞記 |
| ⑤ | a | 教行信証    | b | 開目抄     |
| ⑥ | a | 選択本願念仏集 | b | 興禅護国論   |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 3	23	④	2

2012 年追試

問5 次の文章は法然の弟子親鸞の言葉である。念仏を<sup>とな</sup>称えても、喜びの心が湧いてこないことを心配する弟子に対し、親鸞は次のように答えている。この文章を読み、その趣旨として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

17

よくよく案じみれば、天に踊り、地に踊るほどに、よろこぶべきことをよろこばぬにて、いよいよ往生は<sup>いちじょう</sup>一定\*と<sup>しよ</sup>思いたもうべきなり。よろこぶべきころをおさえて、よろこばせざるは<sup>しよ</sup>煩惱の<sup>い</sup>所為\*\*なり。しかるに仏かねて知ろしめして\*\*\*、煩惱具足の凡夫と<sup>おお</sup>仰せられたることなれば、他力の悲願は、かくのごときのわれらがためなりけりと知られて、いよいよ頼もしくおぼゆるなり。

(唯円『歎異抄』より)

\*一定：確かにそうと定まっていること

\*\*所為：仕業・原因

\*\*\*知ろしめして：お知りになって

- ① 喜びの心が湧いてこないがゆえに、往生は確かに定まっている。信心がないことを凡夫に自覚させるため、仏は私たちを、喜ばせないのである。そのことを確実に知ると、ますます本願を頼むべきという心が湧いてくる。
- ② 喜びの心が湧いてこないがゆえに、往生は確かに定まっている。信心が足りないことを凡夫に知らせるため、仏は誓願を立てたのだから、喜ばない心を翻して、まず喜ぶべきであり、ますます本願を頼むべきである。
- ③ 喜びの心が湧いてこないがゆえに、往生は確かに定まっている。なぜなら、仏の誓願はそのような凡夫を対象としているからである。したがって喜ばないからこそ往生は確実にあり、ますます本願が頼もしく思われる。
- ④ 喜びの心が湧いてこないがゆえに、往生は確かに定まっている。なぜなら、喜ぶ心を妨げているのは、煩惱の仕業だからである。したがって煩惱を増やすよう努めれば往生は確実にあり、ますます本願が頼もしく思われる。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
------	----	------	----	----

第 3 問	問 5	17	③	3
-------	-----	----	---	---

2011 年本試

問3 『歎異抄』は、「善人なほもて往生をとぐ、いはんや悪人をや」という親鸞の言葉を伝えている。このなかで使用されている「善人」と「悪人」の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

16

- ① 「善人」とは、阿弥陀仏とは無関係に自力の善のみによって往生が可能な人のことであり、「悪人」とは、根深い煩惱によって悪を行ってしまいがちな自己を自覚し、阿弥陀仏をたのんで、善に努めようとする人のことである。
- ② 「善人」とは、阿弥陀仏とは無関係に自力の善のみによって往生が可能な人のことであり、「悪人」とは、根深い煩惱を自覚し、どんなに善をなそうと努めても不可能であると思い、阿弥陀仏の救いをたのむ人のことである。
- ③ 「善人」とは、自力で善を行うことができると思っている人のことであり、「悪人」とは、根深い煩惱を自覚し、どんなに善をなそうと努めても、それが不可能であると思っている人のことである。
- ④ 「善人」とは、自力で善を行うことができると思っている人のことであり、「悪人」とは、根深い煩惱によって悪を行ってしまいがちな自己を自覚し、できるだけ善に努めようとする人のことである。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第3問	問3	16	③	3

2010 年本試

問 2 自らの罪業ざいごうに思い悩んでいた親鸞は、比叡山を下り、京都の六角堂で参籠さんろうしていたときに観音菩薩から夢告むこくを受けたという。次の文章は、観音菩薩が夢のなかで親鸞に告げたとされる言葉である。この文章と本文を併あわせて理解した場合、親鸞の信仰の特徴についてどのようなことが言えるだろうか。最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 15

あなたが宿業あつてもしも女性と結ばれるならば、私はその女性となってあなたと結ばれよう。一生の間あなたを尊いものとして照らし、臨終においてはあなたを導いて極楽浄土に生まれさせよう。

(覚如かくによ『御伝鈔ごでんしやう』による)

- ① 親鸞は、この世で恵信尼を妻としたことで観音菩薩にも結び付き、僧でも俗でもない立場から生活に根ざした教えとして他力信仰を説き広めた。
- ② 親鸞は、この世で恵信尼を妻としたことによる罪業を贖あがなうために観音菩薩にも皈依し、そのことを通して生涯にわたって他力信仰を説き広めた。
- ③ 親鸞は、異性に対する煩惱に苦しんだが、観音菩薩に皈依することで煩惱を抑えることができ、人々の苦しみに心を寄せて他力信仰を説き広めた。
- ④ 親鸞は、異性に対する煩惱に苦しんだが、観音菩薩の智慧ちえと一体化することで煩惱を克服し、生まれ変わりの思想として他力信仰を説き広めた。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 2	15	①	3

2007 年追試

問 2 親鸞は「たとひ法然聖人にすかされ\*まゐらせて念仏して地獄におちたりとも、さらに後悔すべからずさふらふ」と述べたと伝えられる。法然を継承した親鸞の思想として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。（\*すかされ：「だまされ」の意。） 

14
----

- ① 末法の世では、私はすでに地獄に 墮<sup>お</sup>ちている悪人であり、観想念仏によって西方浄土に往生するしか、成仏の途はありえない。
- ② 末法の世では、私は煩悩まみれの、地獄に墮<sup>お</sup>ちるはずの悪人であり、称名念仏によりつつ進んで悪を作り続けることしか、成仏の途はありえない。
- ③ 末法の世では、私はだまされていると知りつつも修行する悪人であり、観想念仏によりつつ一度地獄に墮<sup>お</sup>ちることしか、成仏の途はありえない。
- ④ 末法の世では、私は修行のできない、地獄に墮<sup>お</sup>ちるべき悪人であり、称名念仏によって極楽往生するしか、成仏の途はありえない。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 2	14	④	3

2005 年追試

問 1 文章中の 20 に入れるのに最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ  
選べ。 20

生かされているということ、空海とは別の視点から問題にしたのが親鸞である。親鸞の考え方は、一般に絶対他力と呼ばれる。親鸞には、20 の世における「煩惱具足の凡夫」という自覚があった。どんなに修行を重ねても煩惱を離れることができない凡夫は、阿弥陀仏に自己のすべてを委<sup>ゆだ</sup>ねるしか、救われようがない。しかし信心において阿弥陀仏にすべてを任せた人は、阿弥陀仏に救いとられる中で、生かされている自己を発見する。新たにいのちが与えられるのである。親鸞にとっては、宇宙との合一よりも、そうした救われる自己のありようこそが重要な関心事であった。

- ① 末法      ② 正法      ③ 像法      ④ 王法

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第3問	問1	20	①	2

2004 年本試

問 1 文章中の  に入れるのに最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

親鸞は、成仏を目指して、 の教えに従って修行を行った。しかし悟りを得ることはできず、仏から隔たった自己を見つめて苦悩する。やがてその修行を離れ法然の弟子となった親鸞は、自力では克服不可能な根深い煩悩を抱え、悪人たらざるをえない自己を自覚していった。末法の世に生きる同時代の人間も同様であると捉えた親鸞にとって、この時代にいかに成仏が可能か、それが課題だった。そして、法然の教えをさらに深め、新たな思想を提示したのである。

- ① 天台宗    ② 律宗    ③ 真言宗    ④ 修験道

問 2 親鸞の思想についての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 阿弥陀仏の救済の力は絶大である。念仏を唱える人間は誰でも浄土に往生できるが、そのためには自己の煩悩を自覚し、日常生活のすべてを捨てなければならない。
- ② 念仏を唱えること以外の、一切の自力の修行を廃すべきである。阿弥陀仏は煩悩を抱えた人間のために称名念仏を選んだのだから、それのみを修行すれば往生できる。
- ③ 自力の修行で煩悩を克服することは困難である。浄土に往生するためには、日頃念仏を唱えるとともに、臨終の際に煩悩が生じないようにすることが特に重要である。
- ④ 煩悩を抱えた人間が浄土に往生できるのは、完全に阿弥陀仏の救済の力による。自ら唱えているように思っている念仏や信心すら、阿弥陀仏の働きに由来する。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第3問	問1	20	①	2
第3問	問2	22	④	3

2001 年本試

問 1 文中の [ 20 ] ・ [ 21 ] に入れるのに最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つずつ選べ。

阿弥陀仏の本願がまことであるならば、釈尊がお説きになった教えも嘘<sup>うそ</sup>いつわりであるはずはありません。釈尊の教説がまことであるならば、善導が解釈なされたことが嘘いつわりであるはずはありません。善導の解釈がまことならば、[ 20 ] 先生が語られたことが嘘いつわりであるはずはありません。[ 20 ] 先生の言葉がまことならば、わたしが申し上げるところもまたいつわりではありえないでしょう。

つまるところ、わたしの信心は以上のようなものです。この上は念仏を信じようとも、あるいは捨てようとも、あなた方一人一人がお決めになることなのです。

——このように、[ 21 ] 先生はおっしゃいました。 『歎異抄』

- ① 法 然    ② 蓮 如    ③ 親 鸞    ④ 唯 円    ⑤ 源 信

問 6 文中の [ A ] に入れるのに最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 [ 26 ]

わたしには、「念仏をとなえ、阿<sup>あ</sup>弥<sup>み</sup>陀<sup>だ</sup> 仏に救ってもらうがよい」という先生の教えを受けて信ずるほかに特別のことは何もないのです。念仏をとなえることが、浄土に生まれる因<sup>いん</sup>であるのか、また地獄に落ちる業<sup>ごう</sup>であるのか、[ A ]。たとえ先生にだまされて、念仏をとなえたために地獄に落ちたとしても少しも後悔いたしません。もしも、念仏以外の修行に励むことによって成仏できるはずの身が念仏をとなえたために地獄に落ちたというのであれば、だまされたという後悔もあるでしょう。しかし、どのような修行もできないわたしのような、煩惱にまみれ罪悪に満ちた人間は、所詮<sup>しよせん</sup> 地獄に落ちるべく決まっているからです。 『歎異抄』

- ① いずれもまったく信じられません

- ② いずれかようやくわかりました
- ③ いずれともまったくわからないのです
- ④ いずれか重々よくわかっております

問 8 阿弥陀仏の本願に関する記述として**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。 28

- ① 阿弥陀仏の本願が正しいのであれば，自らの力で善や修行をなしえないというような悪人が往生できないわけではない。
- ② 阿弥陀仏の本願への信は，最終的には信者一人一人の心の問題であって，一般的な言葉の説明のみで括れる事柄ではない。
- ③ 阿弥陀仏の本願の正しさは，阿弥陀仏以来の，師から弟子へと伝えられてきた現実の歴史の流れにおいて客観的に証明されている。
- ④ 阿弥陀仏の本願への信には，信者自身の救われがたさの自覚と，そうした救われがたい者こそが救われるという信が含まれている。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 1	20	①	2
第 3 問	問 1	21	③	2
第 3 問	問 6	26	③	3
第 3 問	問 8	28	③	4